



コロナめ先のカード…新たなる一手を御紹介

12月あたりから、イギリスをはじめとしてコロナのワクチン接種がスタートした。ワクチン開発には、通常であれば5年以上はかかるというのに、そのワープスピードには驚かされる。米国のファイザー社製など、日本でも1.4億人分の購入契約をして、その予算は6700億円…。(なんで人口よりも多いのか、意味不明) 一人2回接種で4785円であるので、米国内で41\$と言われていることからして、ボラしているとも思えずまあ妥当なラインの価格のようだ。というよりも、6月時点では一本100万円だと言われていたことからすると、異常に安価だ。



さて、このmRNAワクチンの技術は、コロナウィルスの1鎖の遺伝子構成の中の害毒になる部分を切り取ったモノを人工的に作り出して、これを人体にいれて抗体を作ってしまうという世界初の技術である。つまり遺伝子組み換え技術みたいなもので、理論上は何年も前に確立した技術であったが、これを実際にワクチンにして人体に入れて抗体形成の効果があるか？重篤な副反応は出ないのか？の検証を一応はクリアしたというが…、一般人接種から1年間は経過観察をすともいうから、果たしていかなものか…。世界のワクチン開発の先行する国は、アメリカ・ロシア・イギリス・中国とすべて軍事大国であり、元々生物兵器としての研究が基礎にあるように、まあ少々の死人や副反応がでて『辛抱せい！』的感覚は否めない。そういう意味では日本のワクチン開発(阪大グループ)はゆっくり慎重であり安全性重視で、お医者様は圧倒的に国産をお勧めしている。(21年度いっぱいはいかりそうだ。)

日本に舶来ワクチンの順番が回ってくるのは、21年度の4～6月あたりになりそうだが、感染者が20万人くらいの日本は世界的に見れば2桁ほども罹患者は少ないので、まあ後回しはやむをえまい。特に日本でのコロナ死亡者の累計数は3000人くらいであって、1月単月に餅を食べて亡くなるご老体が3000人というから、『餅の方が怖い！』というデータにもなる。そんな中で、進んでワクチンを打ちたいという日本人は12%くらい、55%の人は物見と決め込んでいるようだ。『費用は政府持ち、全員が打ちましょう！』と日本政府は接種を推奨してはいるものの、『ただ』ほど怖いものはない…。アメリカ人ならば『ここで打てば君はヒーローだ！』と言い、イギリス人ならば『ここで打つのは紳士のたしなみです』、ドイツ人ならば『打つのが規則です』となつて、あまのじゃくなフランス人には『打ってはいけない！』と言えよいわけだ。で、日本人には『もう皆さん打たれてますよ！あと僅か！』と言えよよくって、ここでノーチャージを自慢にすることもあるまい。

さて、どうやっても日本でのワクチンはこの冬場には間に合わない。マスクを着けて3密を避けて、手洗いうがいの励行と適度な湿度とお決まりのパターンだが、こうも罹患者が増加するとなんだか不安でならない。しかし今回、『これはイケる!!!』というものが8月に発売されたので、セミナーを受講してみた。首につるすカード型の空気清浄グッズだ。この手のモノは数社から発売されているが、消費者庁にエビデンスなしとされている商品も多い。だが、『これはお勧め！』というものを選択・入手し、代理店資格もとった。弊社は販売員も工場も社員全員で着用して操業停止を回避するつもりだ。ご近所の発熱外来で頑張っている小畠クリニックの先生(テレビにも出た方)も喜んで装着しながら診察をなさっている。皆様にも販売が可能となったので、よろしければ別紙ご参照の上、どうぞお申し込みください。この冬は、カードとともに感染防止に努めましょう…。(筆：健康法師)



**お餅を食べる時は
気を付けて!**



『高機能椅子』が売れている理由に納得！

コロナの影響からテレワークで在宅勤務をする方が増えているなか、高機能の『ゲーミングチェア』なるものが売れているとのこと。文字通り、テレビゲーム専用の椅子です。ゲーミングチェアは、頭の先まで包み込むホールド感を高めたつくりや首専用のシート、165度まで可能なリクライニング機能などが特徴で、長時間座っていても疲れにくいことから自宅でパソコン作業をする方々に人気が出ているようです。売れ筋は7万円前後の商品。椅子一脚に数万円…。ニトリだったら、家族みんなで座れるダイニングセットが買えるのに…とってしまいます。



同じ買うなら快眠を誘う高品質のベッドやマットレスの方がいいはずと思いますが、2012年にシドニー大学が行った調査で『日本人は座っている時間が世界一長い』という研究結果が出ていました。世界20か国の一日平均時間はおよそ5時間ですが、日本人は7時間と世界平均より2時間も長かったのです。

一方で、睡眠時間はというと、日本人は世界一短い7時間22分。世界平均より1時間も短い結果となっています。この結果を見ると、テレワークで増えたおうち時間に、ゆっくり休めるベッドではなく、高機能な椅子を求めてしまうことは日本人の本能であり、自然な流れだったのですね。

しかしながら、座っている時間が長いと肥満や高血圧などの生活習慣病に加えて、がんなどの成人病を誘発し、世界で年間200万人もの死因となっているとのWHOの報告も出されています。睡眠時間が短いのも同様に生活習慣病や免疫機能の低下を招くそうです。通勤の労がなくなる⇒座位の時間が増える⇒運動不足・・・、結果、ゲーミングチェアは日本人の不健康を助長するのかもしれない。(筆：三上)



健康法師(尼さん)の独り言 パート 104

〈謎肉：カップヌードルの歴史〉

日清食品のカップヌードルは、今や世界を席卷するカップ麺の元祖。1971年の発売から約50年も経過しており、食べたことがないという日本人はないという程にメジャーな存在だ。その当初から中に入っていた、ドッグフード状のお肉の様なお肉でないような茶色の物体…。これが美味しいと若者たちの心をとらえ、通称『謎肉(なぞにく)』と言われながらカップヌードルの人気の一翼を担ってきたという。社内の正式名称は『ダイスミンチ』と言ってきたが、とうとう社長の英断で2016年には『謎肉』を公式の通称に採用、ここからノリノリの販売促進策を投入することになった。2017年には豚肉と大豆と野菜を混合したフリーズドライ加工だと手の内を発表、毎年9月には『謎肉祭り』と称してコンビニ缶を出したり、『肉盛りペッパー醤油味』『謎肉牛丼』とか、もうハチャメチャ感だが、これがまた大いに受けているようだ。

こうして50年にわたり、私たち

日本人は日清食品に『変な肉』『成形肉』を美味しい物として抵抗感なく食べ慣れされてきたというわけだ。ところが近年、さらにお肉の事情は進化を遂げているようなのです。

次回に続く…。(筆：白木)



編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。今年もまた新しい1年が始まりましたね。コロナに負けずに、強い体作りに励みたいと思います。今年もどうぞよろしくお願い致します。 松村

